

研究の概要

(1) 研究主題

心をひらき ともに学ぶ子どもの育成 ～自分の思いを表現し、深め合う道徳の授業づくりを通して～

(2) 研究主題設定の理由

本校では、平成 25 年度から 28 年度までの 3 年次計画で、国語科の「読むこと」を窓口としながら子どもたちの主体的な学びを引き出し、伝え合う力の育成を図るための研究を行ってきた。またこの研究は、小規模校である本校が有する「複式学級」の学び方・学ばせ方を構築しようというものであった。

3 年間の研究を経て、子どもたちは、学習リーダーを中心としながら、自分たちで国語科の学習を進める方法と意欲を身につけることができた。1 年次は、教師が「わたり」「ずらし」を行いながらの「直接指導」と「間接指導」による学習展開であったが、3 年次には、子どもが学習を進める力をつけたことにより「同時間接指導」が可能となった。このことで、教師は 2 つの学年を指導しながらも、子どもをつまづきや疑問に対してタイミングよく支援をすることができるようになった。すべての子どもに、基礎的・基本的な学習内容を定着させることができ、それが、子どもの主体的な学びを引き出すことにもつながった。

一方、課題として、国語科の研究で身につけてきた主体的に学ぶ方法や意欲を他教科・他領域に広げ、学校教育・学校生活全体を通して「伝え合う力」を育む必要が見いだされた。また、子どもの実態として、「わかるまで聞く」「食い違いをもとに考えを深める」ことへの弱さがとらえられ、学習の深まりとあわせて、人との関わり方や自尊感情の高まりにも取り組む必要があると思われる。

教育における今日的な課題として、「道徳の時間」が平成 30 年度から「特別の教科道徳」として教科化されることがある。これを機会とし、発達の段階を踏まえて 6 年間の道徳教育を系統立てて推進しながら、小規模校の特質を生かした一人一人を生かす教育の充実を図りたい。

以上のことから、本研究主題を設定した。

(3) 研究主題のおさえ

心をひらき、ともに学ぶ子どもの育成

□心をひらき = 自尊感情・他者からの受容感

○身近な周囲との関係から、まわりの人は自分の状況や気持ちをわかってくれているという実感を得、互いを肯定的にとらえ、伝え合うことができる。

□ともに学ぶ = 価値理解・人間理解・他者理解・協働的に学ぶ

〈共に学ぶ〉

○人とかかわるうえで、道徳的な価値が大切であることを理解することができる。

○道徳的価値の実現に難しさがあることも理解しつつ、より良い生き方を追究することができる

〈友に学ぶ〉

○道徳的価値の実現に向けて、多様な価値や感じ方、考え方があることを理解することができる。

○友達の考えを聴き、自分と比較・検討しながら、自分の考えを広げ、深めていくことができる。

(4) 研究内容と視点

<p>【具体仮説1】</p> <p>道徳教育の全体計画をもとにした年間指導計画, 及び, 別葉を作成し, 全教育活動を通じて, 各教科・領域との関連を意識した道徳教育を行うことにより, 道徳的な価値を生活に生かそうとする子どもを, 育むことができるであろう。</p>	<p>【具体仮説2】</p> <p>「道徳の時間」の授業において, 子どもの実態に即した, 問題解決的な学習を展開させるとともに, 子どもの言語活動の充実を図ることで, 自己を見つめ, よりよい生き方を追究する子どもを育むことができるであろう。</p>	<p>【具体仮説3】</p> <p>子どもの道徳性にかかわる成長の様子や, 「道徳の時間」における学習状況を継続的・共感的にとらえることにより, 子どもの自尊感情を高め, 互いを肯定的にとらえて伝え合い, 高め合う子どもを, 育むことができるであろう。</p>
<p>〈研究内容1〉</p> <p>○道徳教育の全体計画の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の全体計画に基づく年間指導計画の整備 ・各教科や領域との関連をとらえる, 別葉の作成 	<p>〈研究内容2〉</p> <p>○「道徳の時間」の授業の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習指導過程に基づく指導 ・児童の実態に応じた, 資料の選定と分析 ・基本発問と中心発問の吟味 ・言語活動の充実 ・構造的な板書の工夫 	<p>〈研究内容3〉</p> <p>○評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳ノートの活用 (子どもの記述からの評価) ・子どもの変容をとらえる, 質的記録の活用 (教師の記述からの評価)

(5) 研究計画

学期	1年次(平成28年度) (研究計画の構想と立案)	2年次(平成29年度) (実践研究の蓄積と検証)	3年次(平成30年度) (実践研究の検証と発展)
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○研究主題の設定 ○仮説の設定 ○研究内容の構想 ○道徳の全体計画・年間指導計画・別葉の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○研究仮説・内容の修正 ・1年次の課題を踏まえた研究仮説の修正と, それに基づく研究内容の具体化 	<ul style="list-style-type: none"> ○研究推進計画の見直し ○研究内容の修正 ・2年次の課題を踏まえた研究内容の検討
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○検証のための実践 ・研究授業 ■指導主事による講義 「道徳の時間における授業展開と評価」についての学習会 	<ul style="list-style-type: none"> ○検証のための実践 ・研究授業と協議会 ■指導主事を招いての授業研究と研究協議 	<ul style="list-style-type: none"> ○検証のための実践 ・授業研究 ■公開研究会の実施 ○研究結果の処理 ・研究紀要の作成
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○研究結果の整理 ・成果と課題の把握 ○道徳の全体計画・年間指導計画・別葉の修正 	<ul style="list-style-type: none"> ○研究結果の整理 ・成果と課題の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ○研究全体のまとめ ○次年度の研究について

(6) 研究構造図

